

特別寄稿



全地連「技術フォーラム'96」仙台を共催して

東北地質調査業協会 理事長
永井 茂

「大地」「技術フォーラム'96」仙台特集号の発刊に当たり一言ご挨拶申し上げます。

昨年、平成8年の技術フォーラムの開催地を仙台にご決定いただいてから、早速当協会内に副理事長を委員長とする企画委員会を組織し、全地連の関係者の指導を受けつつ東北独自の企画を検討してきました。企画委員会は組織を拡大し本年2月に実行委員会に移行し、全国の技術者の受け入れ準備も進めてまいりました。業界の技術レベルの向上と技術者交流を目的とした、この行事は大変意義のある全地連の最大の定例行事として今回第7回を迎えました。おかげさまで今回の発表論文数149編に及び過去最大の発表数となり、成功裡に無事終了させていただきました。関係各位に厚く御礼申し上げます。

今回のフォーラムのテーマ講演として、山形大学の原田憲一教授に「地質と文明」と言うテーマでお願いし、「21世紀社会と地質学の役割」と言う副題でご講演をいただきました。また特別企画として会員企業で活躍している女性技術者を対象に「女性技術者が描く将来像」をパネルディスカッション形式の討論会を行いました。両者とも大変時宜を得た企画として好評でした。また各会場とも盛況で地質調査各企業の技術者の熱意があふれていました。

これらを企画運営いただいた実行委員会委員の方々、ワーキングスタッフの方々、ご協力いただいた東北地質業協会会員企業の皆さまに改めて謝意を表する次第であります。このフォーラムの打ち合わせ準備、開催を通じ会員各社、技術者各位の連携が強まり、当協会の益々の発展につながるものと確信しております。

最後になりますが、種々御指導頂いた全地連の関係者の皆さま、貴重なご意見を頂いた北海道協会と中国協会の皆さま、全国各地からご参加頂いた技術者の皆さまに深甚の謝意を表してご挨拶といたします。